

大原の里と比良の山

大原のオオムラサキを守る会
蓬 菜 む し の 会
第19号 2025.10.10

麝香揚羽天国計画 『お家でジャコウアゲハ』 その後

大友 正生

前回（第15号）、放蝶した母蝶が産卵し孵化したところまでを報告した。5月初旬から3ヶ月が経過する中で疑問が生じてきた。疑問①は赤色幼虫が出現したことである（図1）。どのような成虫が羽化してくるか、9月下旬が楽しみである。（参考：図2は正常の色彩の幼虫、図3は産卵中のメス）

疑問②はジャコウアゲハは年何回発生？。3回？、4回？。図鑑では、4月末に春型が発生、6月末から9月にかけて夏型が2～3回発生をくり返す（図説日本の蝶 ニュウ・サイエンス社 藤岡知夫著）。インターネットでは、3～4回（ピクシブ百科事典、ウィキペディア）とある。

下の表1は写真を撮影した日を表したものである。これを見ると各月の20日前後に成虫が発生しているように思える。5回発生している？

9月1日現在ウマノスズクサは葉が茂っており、ジャコウアゲハが1サイクル（卵～成虫）育っていける状態である。今までの発生回数を超えているのか、南方系の他の昆虫はどの様になっているのだろうか。



図1 赤色幼虫



図2 正常幼虫

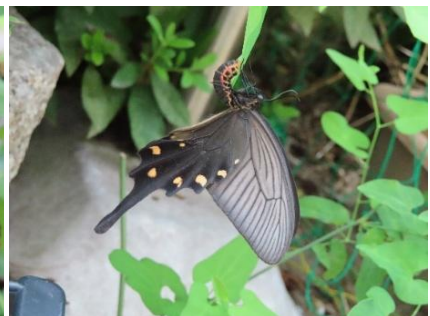
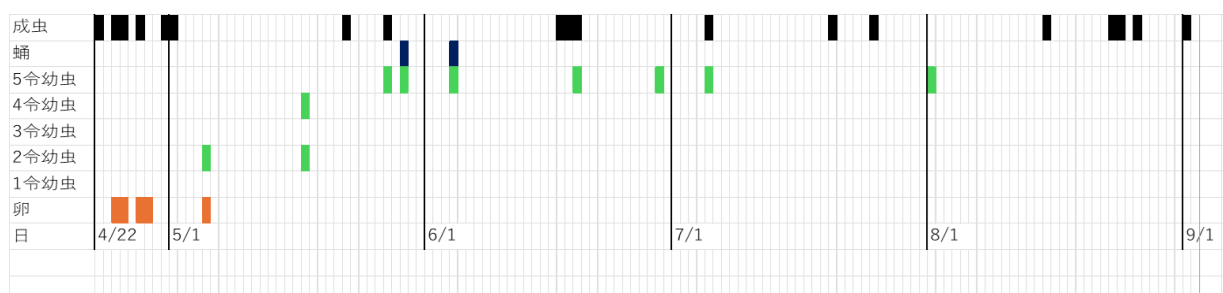


図3 産卵中のメス

表1 各ステージの写真撮影日



私の虫採り物語 (4) オオムラサキとの出会い

小松 清弘

初めてオオムラサキに出会ったのは、岩倉の坂原だった (図 1)。

中学に行った年の6月だったと思う。父が兄と私を岩倉へ採集に連れて行ってくれた。父の母は岩倉の出で、父は岩倉を結構よく知っていたようである。

花園から山に入って林道を下ると坂原へ出た。水田の横にクヌギ林があり、大きな台場クヌギが何本もあった。クヌギの樹液にはカブトムシやクワガタムシ、カナブンが集まっていた。

そんな木を何本か見て回っていたらそこに白い大きなチョウが吸蜜していた。初めて見るオオムラサキだった。「でかい!!」。第1印象がそれだった。気づかれないようにそっと近づいてネットを被せて横に払った。ネットの中には確かな手ごたえ。地面に下ろしてネットを見ると大きなチョウがバサバサと暴れていた。大きな翅に太い胴で胸を抑えるのに苦労した。取り出して手に持つ。大きなメスでその迫力に改めて驚かされる。三角紙に収めるのにも苦労する。

帰宅して展翅してみてもスギタニ型であることに気づきまたびっくりする (図 2)。

それからしばらくは休日になると坂原通いをした。きれいなオスも採集できた。梢を飛ぶ雄姿を眺めたり、オス同士のバトル、追尾飛翔、テリトリーに近づいた自分より大きい鳥にも向かっていく姿を楽しんだりした。

今はどうなっているのだろうか。クヌギ林はまだあるのだろうか。オオムラサキはいるのだろうか。機会があれば久しぶりに訪れてみたい。



図1 岩倉坂原



図2 坂原で採集したスギタニ型のメス

今年も咲いた裏山のササユリ

木村 幹雄

少しでも季節を感じることでできる生活環境にあこがれ、第二の就職も退職した 2013 年の夏に京都市伏見区から大津市坂本へと転居しました。

知り合いの不動産屋の紹介で比叡山の麓で自然豊かなところとして、ここを紹介してもらいましたが、宅地の裏はカシ、コナラやウワミズザクラの大木と地面は不法投棄と一面笹に覆われた急斜面で歩くのも容易でなく、獣捕獲用の檻が仕掛けられているような土地でした。それでも近所の人は、昔はこの斜面にササユリなどが綺麗に咲いていたと話してくれました。

実際住んでみると、思っていたとおり静かな自然に囲まれた環境下で、朝は鳥の声で目を覚まし、季節の移り変わりを五感で感じられるそんな暮らしが始まったのでした。

まずは裏山の整備に取り掛かり、近所の業者さんに頼んで、斜面の笹を刈り取り、大木の伐採、不法投棄されているごみの始末をしてもらい、そのあとにサクラ、モミジ、コブシなどを植えてもらいました。

その結果、これで静かな生活が始まると思ったのが大間違いで、始まったのは鹿、猪、猿など野生動物との闘いでした。植えてもらったサクラなどは軒並み枝を折られ、若葉を食い荒らされ、へっぴり腰で耕した畑は掘り繰り返され、サツマイモ、トウモロコシなどは全て持ち去られるといった有様でした。

ここでは獣害をいかに防ぐかをまず第一にしなければならなかったことだと知らされ、急いでポールを立て、ネットを張り巡らし安心したところで、今度は鹿にネットを食い破られ、ネットは何の役にも立たないことも教えられました。

そんなある日の夏、家の裏山に綺麗な白いユリの花が咲いているのを見つけました。これがササユリかと喜び、熱心に写真に撮り自慢げにフェイスブックにアップしたところ、それを見た複数の友人から、それは台湾からやってきたタカサゴユリであると指摘があり、慌てて訂正する羽目となりました。

その後、ネットをワイヤーメッシュなどの金属製の網に変え、やっと鹿や猪の害を食い止めることができました。

引っ越してきて3年。野生動物との闘いに明け暮れる2016年の初夏の日にもふと気が付くとウワミズザクラの根元に白い可憐なユリが2輪咲いているのに気が付きました。それこそ真正銘のササユリだったのです。それから9年が過ぎ、今年はやっと裏山の3ヶ所でササユリが咲くようになりました。

隣村の仰木には「里山」の生みの親ともいわれている今森光彦さんのアトリエもあり、少しでも真似をして自然との共生を目指していきたいと思っています。カンアオイも自生している裏山を大切に、カタクリの増殖にも夢をばせ、いつかはギフチョウの舞う里山にしたいと夢見ています。



裏山のササユリ 2025. 5. 29 撮影: 的場亮一氏

ギンカクラゲ

藤野 適宏

2007 年 9 月 26 日の夕暮近く、K 氏と私は上山高原（兵庫県新温泉町）で胸をときめかせていた。あるはずがないと思っていたヨツバヒヨドリの花にアサギマダラが飛び交っていたのだ。思えばこの日の早朝に鳥取県の伯耆大山に着き、それから中国山地を西進して蒜山高原、人形峠、県立森林公園（以上、岡山県）、河合谷林道（鳥取県鳥取市）に至ったが、1 頭のアサギマダラに出会うことがなかった。季節的には高原に咲くヨツバヒヨドリの季節はとうに過ぎ、無謀ともいえる遠征であったが、その 5 日前、びわ湖バレイで 350 頭もの標識をしていて、その年の特異性を信じての決行であり、最後の望みを託した河合谷林道からの帰路での僥倖であった。我々は急遽予定を変更して浦富海岸（兵庫県岩美町）に宿をとった。

宿のまわりに不思議なものが落ちていた。それは直径 1.5～3 センチの薄っぺらい円盤であった。白いので大根の輪切りのようにも見たが、波打ち際まで歩を進めると砂の上に無数に落ちていて、生物の遺骸に違いないと考えた。

得体が分からないまま 1 枚、2 枚と拾っていると、生きていたときの姿に近いものに出会うことができた。円盤はぬるぬるとした膜に包まれていて、縁から青色のひも状の物体—これもぬるぬるしてつかみ所がなかった—が出ていたので、持てる知識を総動員した結果、円盤はクラゲの骨格であろうと推論した。しかし、クラゲにこのようなしっかりした骨格があるのだろうか。円盤を 10 数枚拾って持ち帰った。

それからひと月ばかりたったある日、思い出してその正体をインターネットで調べてみることにした。と言っても入力する言葉は「クラゲ」以外の持ち合わせはなく、はなはだ心もとない状態ではあった。

ウィキペディアでいくつかのクラゲの名前を一覧にして示してくれたのはいいが、ほとんど予備知識がないので、絶望的な気持ちでそれらの名前を一つ一つクリックしていくと、割合早い段階で紫色をした状態のものを図示してくれた。骨格が銀貨に似ているということでギンカクラゲという名であった。「ヒドロ虫綱花クラゲ目の群体性クラゲの一種」とあり、また、クラゲのように見えるのは実はポリプで、そこから真のクラゲの子を放出するとあった。

これがクラゲの仲間のうちで、どのような分類的な位置づけになるのか私には分からないが、私としてはこの円盤の名前が分かっただけで望外の喜びだった。またその生息場所は暖海・外洋で、ほとんど運動能力がないので海岸に打ち上げられることがあり、日本では太平洋岸で見ることができるということであった。山陰の海岸で、それも多量に打ち上げられていたのは、やはりこれも温暖化の影響なのだろうか。

なお、ギンカクラゲ発見の翌 27 日、ふたたび上山高原へ行って 199 頭に標識した。季節外れのヨツバヒヨドリの開花は、初夏のあるとき草刈が行われたのが原因と思われた。



ギンカクラゲ 2007 年 9 月 26 日
浦富海岸

<9 月おもな活動の報告>

◆9 月 3 日（水）10:00～ （報告者：小松）

○参加者 藤野、木村、塩尻、的場、大友、小松 計 6 名

○活動内容

- ・ 会議 ①セブンイレブン助成金；標本箱到着（文化センターに収納）
②大阪自然史博物館の見学の提案 ③本日の活動内容
- ・ 作業 ①幼虫の観察 ②戸寺のフジバカマ畑の除草
③網室周辺のエノキの剪定、除草

◆9 月 10 日（水）10:00～ （報告者：奥谷）

○参加者 小松、藤野、木村、塩尻、的場、大友、村上、奥谷、計 8 名

○活動内容

- ・ 会議 ①本日の活動内容 ②本日里トラより資材費等が納入される
③オオムラサキの会のホームページを作成する；担当的場さん
 - ・ ホームページ設置計画（別紙参照）
問題点；業者に作成依頼する際は経費がかかる
 - ・ H P 作成 にあたり決めるべき方針、コンテンツ内容などをメールで送る
代案、意見を記入して返送を
- ・ 作業 ①ルートセンサス
②第 1、第 2 網室内の餌台撤去、網室内の整理
③フジバカマ園内外の除草

◆9 月 15 日（月）9:40～14:00 （報告者：大友）

○参加者 大友、的場、小松、村上、計 4 名

○活動内容：びわ湖バレイルートセンサス

◆9 月 17 日（水）10:00～、13:15～ （報告者：奥谷）

○参加者 小松、藤野、木村、塩尻、的場、大友、村上、奥谷、計 8 名

○活動内容

- （午前）10:00～ 網室、文化センター外
- ・ 会議 ①本日の活動内容 ②本日里トラより経費が納入
③大阪自然史博物館昆虫展見学
- ・ 作業 ①幼虫管理 ②網室内；防草シートを撤去し除草
③網室外；キジョランの手入れ ④文化センター外；フジバカマ園の除草、散水
- （午後）13:15～ 文化センター
- ・ 活動打ち合わせ会 （別紙参照）
 - ①セブンイレブン助成金報告書の提出 ②セブンイレブン助成金 2026 年度の申請
 - ③特別展示 ④その他 ドングリ園の管理
 - ⑤ホームページ制作；方針、コンテンツ内容 （別紙参照）

◆9 月 23 日（火）10:00～13:55 （報告者：大友）

○参加者 大友、的場、小松、藤野、計 4 名

○活動内容：びわ湖バレイルートセンサス

◆9月24日(水) 13:00～ 文化センター (報告者: 奥谷)

○参加者 小松、藤野、木村、的場、大友、奥谷、計6名

○活動内容

・活動打ち合わせ会 (2) (別紙参照)

①セブンイレブン助成金報告書の提出

②セブンイレブン助成金 2026 年度の申請書作成

③特別展示・ワークショップー夏休み期間中に実施

④その他 学校のアサギマダラ標識活動、オオムラサキの会の規約
ホームページ作成、今後の網室内の幼虫成虫の管理、エノキの剪定

◆9月27日(土) 10:00～12:00 (報告者: 小松)

○参加者 小松、大友、的場、計3名

○活動内容: 大原ルートセンサス

【あとがき】

クマによる人身被害が絶えない。2025年9月22日現在で、負傷者は89人、死者5人という。私がとても不思議に思うのは、この被害が北海道でも本州でも発生しているということだ。つまりクマが2種とも、積極的に人を襲うようになってきたということである。原因のひとつは山の実りが不作であることによるという。しかし被害は秋の実りの前から起きていた。

愚考するにクマは肉の味を知ってしまったのではないだろうか。北海道でも本州でも、シカの増加はすさまじい。その分、死んでいく個体も多くなっているであろう。クマはシカの死体に出会う機会が増えて、その味を覚えてしまったというわけだ。あるいは生きている個体を襲うこともあるのかもしれない。これは山でも畑でもシカに悩まされ続けている私の妄想かもしれない。しかしこの現象に対して評論する者はいても、真摯に原因究明と対策に向き合う姿勢が見られないのは残念なことである。(藤野)

= 目 次 =

麝香揚羽天国計画 『お家でジャコウアゲハ』その後	1
私の虫採り物語 (4) オオムラサキとの出会い	2
今年も咲いた裏山のササユリ	3
ギンカクラゲ	4
9月おもな活動の報告	5
あとがき・目次	6

発行 大原のオオムラサキを守る会・蓬莱むしの会 2025年10月10日 第19号

大原のオオムラサキを守る会 〒606-0044 京都市左京区上高野仲町54 小松清弘

蓬莱むしの会 〒520-0105 大津市下坂本1-40-16 大友正生

編集 〒611-0011 宇治市五ヶ庄西川原21-151 藤野適宏